



ゆうメール

育脳寺子屋NEWS

2026年 9月号



令和版！企業が求める人物像

～それは「学歴」でも「資格」でもなく・・・～

みなさんは元お笑い芸人のキングコング、西野亮廣さんをご存じですか？

西野さんは、お笑い芸人として活躍された後、絵本『えんとつ町のプペル』の制作や映画化、舞台やミュージカルのプロデュースなど、さまざまな分野で活躍されている方です。

ビジネスの世界でも注目を集めており、現在 100 社以上の企業のコンサル業務を請け負っているそうです。

そんな西野さんが、数多くの企業と関わる中で、とても印象に残るお話をされていました。

「いろいろな会社の人事担当者や経営者と話をしてきたけれど、どの会社にも共通して求めている人物像がある。それは『**明るい人**』です。」

・・・皆さんは、「企業が求める人物」と聞くと、どのような人を思い浮かべるでしょうか。

勉強ができる人。**英語が話せる人。****有名大学を卒業した人。****資格をたくさん持っている人。**

きっと、多くの方がこのような人物像を思い浮かべるのではないのでしょうか。

もちろん、それらは社会で活躍する上で大きな武器になります。しかし、多くの企業が共通して求めているのは、それ以上に「**明るい人**」なのだそうです。

「明るい人」ってどんな人？

ここで言われている明るい人というのは決して、いつもテンションが高い人や、おしゃべりが得意な人という意味ではありません。

例えば周囲に安心感を与え、素直に人と関わるができる人。失敗を恐れず、前向きに一步を踏み出せる人。人との出会いや学びを大切にしながら、自分自身も成長していこうとする人・・・と言えるのではないのでしょうか？

私は、そのような人こそ「明るい人」なのではないかと思います。ではなぜ企業は、そのような人を求めるのでしょうか。

理由はとてもシンプルです。

仕事は、一人で完結するものではないからです。

どれだけ優秀な人でも、一人だけで会社を動かすことはできません。お客様、同僚、上司、後輩、取引先…。職種にもよりますが、毎日たくさんの人と関わりながら仕事は進んでいきます。

そんな中で、周囲から信頼される人には自然と相談が集まり、応援してくれる人が増え、新しい仕事やチャンスも巡ってきます。

反対に、能力は高くても、人との関わりがうまくいかなければ、本来持っている力を十分に発揮できない、もしくは発揮する場を与えてもらえないこともあります。

つまり企業が求めているのは、「明るい性格」ではなく、「人とより良

い関係を築くことのできる力」と言えるのかもしれませんが。

そして私は、この話を聞きながら、「これは育脳寺子屋の教育にもまったく同じことが言える」と感じました。

社会で必要とされる人に

保護者の皆様の多くは、「勉強ができる子に育ってほしい」「希望する学校へ進学してほしい」という願いをお持ちだと思います。

もちろん、その思いは私たちも同じです。テストの点数が上がることも、志望校に合格することも、とても大切な目標です。

しかし、それは子どもたちの人生における一つの通過点にすぎません。

子どもたちは、いずれ社会へ出て、多くの人と関わりながら生きていきます。そのとき本当に必要になるのは、「知識」だけではありません。

・ **自分の考えを相手に伝える力。**
・ **相手の話を受け止める力。**
・ **教えてくださいと言える素直さ。**
・ **人と協力し前へ進んでいく力。**

そうした力があってこそ、学力も社会の中で生かされていくのだと思います。

だからこそ、育脳寺子屋では、「勉強だけ」を教える教室にはしたくないと考えています。

**社会に出てから役立つ
育脳寺子屋の取り組み****①自分の考えを言葉で伝える**

➡育脳寺子屋の問題は答えが一つでないものが多いので、そのような問題の際は○× だけつけるのではなく、「どうしてそう考えたの？」と問いかけ、自分なりの考えを言葉で伝えてもらいます。

最初は自信がなく、なかなかうまく説明できない子も多いですが、繰り返すことで自分の考えをうまく話せるようになります。

また友達の説明を聞いて、「なるほど!」「僕ならこう考える!!」など、自分自身の考え方の幅を広げることに繋がるのです。

勉強は「先生に教えてもらう」だけではなく、「自分で考え、自分の言葉で伝える」「友達から学ぶ」という経験を積み重ねることのできるのです。

②生徒同士で教え合う時間

➡毎回の授業の中でほんの 10 分程度ですが、生徒同士で物語プリントの漢字を教え合う時間も取っています。

高学年のお兄さん・お姉さんが下の学年の子を教える。そして教えてもらっていた下の学年の子の学年が上がれば、今度は教える側にまわる・・・。

このような経験を通し、「自分が良ければ（分かっていたら）良い」ではなく「困っている人（分かっていない人）が居たら助ける」という気持ちを育ててくれたらと考えています。

③授業は自分で組み立てる

➡授業は先生の一方通行ではなく、生徒自身がどのような順番で学ぶか考えて進めます。その結果「段取り能力」や「時間的感覚」を身につけられます。

**今のうちにしか
身につけられない力を**

先述したような、
「**自分の考えを言葉で伝える力**」
「**お互い助け合える力**」

など・・・最近これらは『非認知能力』とよく表現されますが、非認知能力は一朝一夕では身につかないものです。しかし社会に出てからも必要とされる非常に重要な力でもあります。

育脳寺子屋の授業形態、答えが一つでないテキスト、自分の言葉で自分の考えを伝えること、生徒同士で教え合う経験・・・

それらの積み重ねが、将来企業が求める「明るい人」へとつながっていくのではないのでしょうか。

テストの点数や受験の結果はもちろん大事ですが、あくまで人生の一つの通過点にすぎません。

私たちが本当に願っているのは、子どもたちが十年後、二十年後に社会へ出たとき、

「あなたと一緒に働きたい。」**「あなたがいてくれてよかった。」**

と言ってもらえる大人になってくれることです。

育脳寺子屋はこれからも、その未来につながる土台を、育てていきたいと思っています。